

令和3年度中学生チャレンジテスト
(第3学年)結果について

柏原市教育委員会

1. 調査目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (3) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (4) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (5) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2. 調査概要

- | | |
|----------|------------------------|
| (1) 調査日 | 令和3年9月2日(木) |
| (2) 対象学年 | 中学校第3学年全生徒 |
| (3) 調査内容 | 国語・社会・数学・理科・英語・アンケート調査 |

★調査問題掲載先

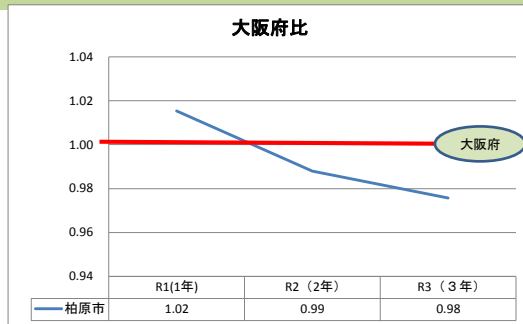
https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/challenge_03_mondai.html

3-1. 国語科調査結果

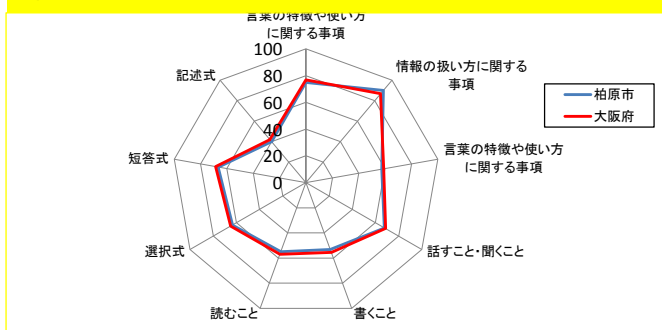
	平均正答率 (%)
柏原市	64.2
大阪府	65.8

分類	区分	対象設問数(問)	得点率		得点率府比	
			柏原市	大阪府		
学習指導要領の領域等	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	9	74.8	76.7	0.98
		情報の扱い方に関する事項	1	90.0	86.7	1.04
		言葉の特徴や使い方に関する事項	6	57.6	59.0	0.98
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	6	67.7	68.6	0.99
		書くこと	2	53.3	55.6	0.96
		読むこと	13	54.9	56.9	0.96
評価の観点	知識・技能	16	67.6	69.1	0.98	
	思考・判断・表現	21	58.7	60.4	0.97	
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-	
問題形式	選択式	11	63.4	64.9	0.98	
	短答式	21	66.5	68.5	0.97	
	記述式	1	40.0	42.0	0.95	

★同一生徒集団の経年比較(令和元年度～令和3年度)



◆領域別等のレーダーチャート

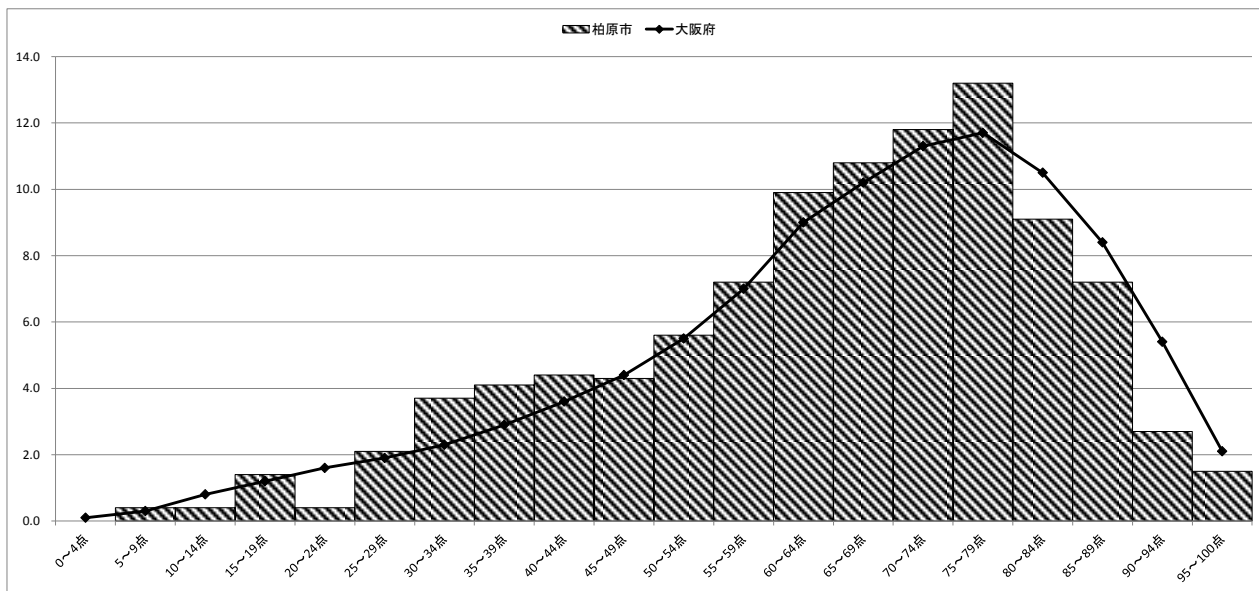


◆特徴的な傾向

- 学習指導要領の領域等「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」の正答率において、大阪府平均を上回る結果となった。
- 得点別分布では「0点～24点」までの区分において、大阪府より少ない割合である。
- ▼学習指導要領の領域等「思考力・判断力・表現力等」においては、すべての区分で大阪府平均を下回っている。
- ▼得点別分布では「80点～100点」までの区分において、大阪府より少ない割合である。
- ▼同一生徒集団の府比の経年変化では低下傾向がある。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



3-1-2. 国語科における課題の見られた問題について

【第3学年】

学習指導要領の領域等

【思・判・表】読むこと

平均正答率等

二 4	平均正答率	無解答率
柏原市	54.7%	0.4%
大阪府	59.4%	0.3%

正答

イ

著作権保護の観点により、掲載を控えております。

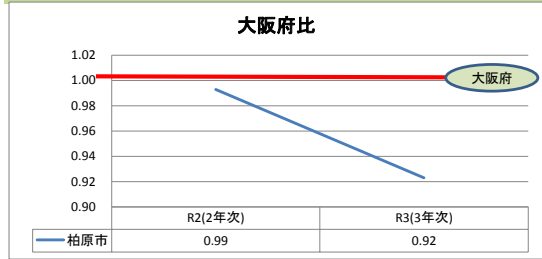
問題の概要は「示した文章が本文中に入る適切な箇所を選択する」である。問題の趣旨は「文章全体と部分との関係を考え、内容の理解に役立てることができる」である。記号選択であるため、無回答率は低いが、正答率が大阪府の平均正答率より低い。資料(文章)を読み、全体的な流れを理解することに課題がある。授業では、文章全体を要約し、流れを整理して記述する等の学習活動が求められる。

3-2. 社会科調査結果

	平均正答率(%)
柏原市	44.5
大阪府	48.2

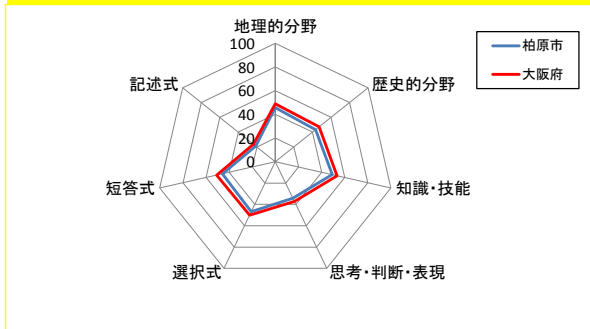
分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	地理的分野	20	45.5	48.9	0.93
	歴史的分野	17	43.3	47.3	0.92
評価の観点	知識・技能	27	49.3	53.4	0.92
	思考・判断・表現	10	34.1	37.2	0.92
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	27	46.7	50.1	0.93
	短答式	8	45.9	50.9	0.90
	記述式	2	21.3	23.8	0.89

★同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)



※令和元年度(1年次)の社会科の調査はございません。
 ※令和2年度(2年次)のA問題とB問題の平均正答率を足して2で割った数値で表しています。

◆領域別等のレーダーチャート

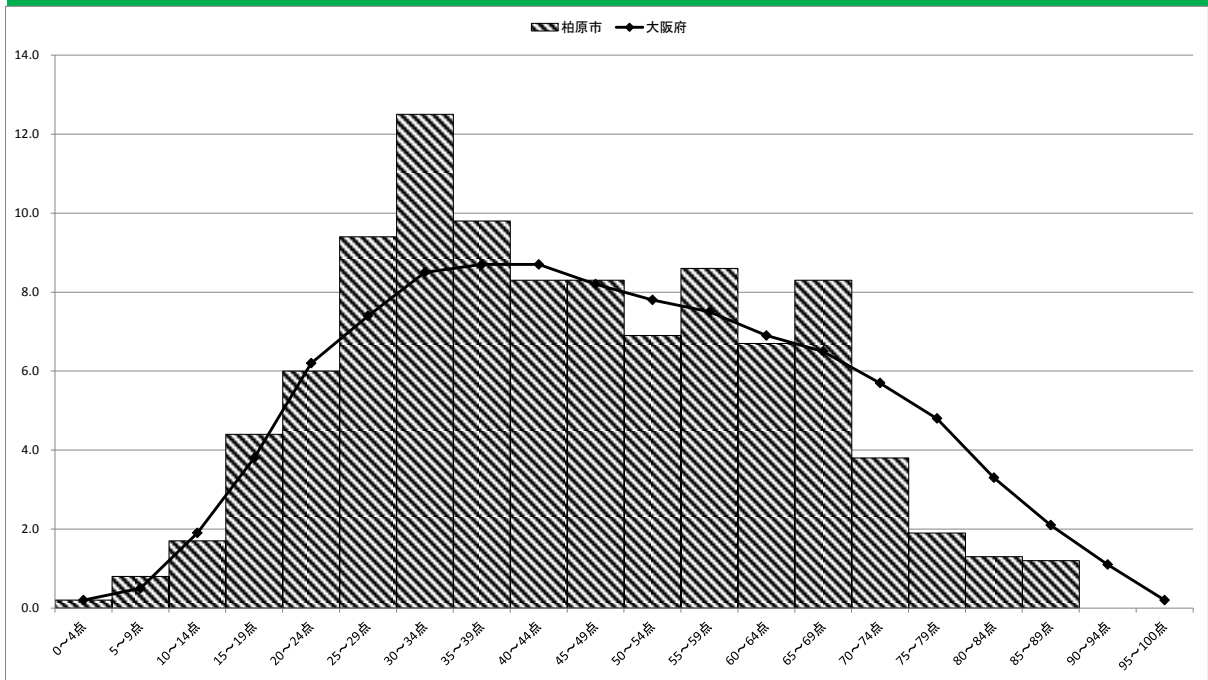


◆特徴的な傾向

- ▼評価の観点においては、知識・技能、思考・判断・表現のいずれも大阪府平均を下回っている。
- ▼得点別分布では「70点～100点」までの区分において、大阪府より少ない割合である。
- ▼40点未満の低得点域への偏りがみられる。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



3-2-2. 社会科における課題の見られた問題について

【第3学年】

学習指導要領の領域等

B 地理的分野

平均正答率等

3 (5) ②	平均正答率	無解答率
柏原市	7.7%	32.8%
大阪府	34.7%	18.8%

正答

バイオマス(発電)

② たかしさんは、再生可能エネルギーによる発電についてさらに調べていると、日本以外の4か国において、太陽光よりも発電量が多い再生可能エネルギーがあることを知りました。次の文章は、この再生可能エネルギーによる発電について、たかしさんが調べた内容をまとめたものです。文章中の(I)に共通して入る語をカタカナ5字で書きなさい。

(I) 発電について

- ・^{はいざい}廃材や^{かちく}生ごみ、^{にじょう}家畜のふん尿など、植物や動物などから生まれた生物由来の資源は(I)と呼ばれ、この生物資源を直接燃焼したりガス化したりするなどして発電することは(I)発電と呼ばれている。
- ・ドイツの農村部では、家畜のふん尿と、とうもろこしなどの作物や食品^{はいきぶつ}廃棄物を混ぜてメタンガスを発生させ、このガスで発電を行っている。
- ・ブラジルでは、さとうきびの^{しぼ}搾りかすを用いて発電している。
- ・日本では、木くずなどを燃料とした発電所や生ごみを利用した発電所がある。

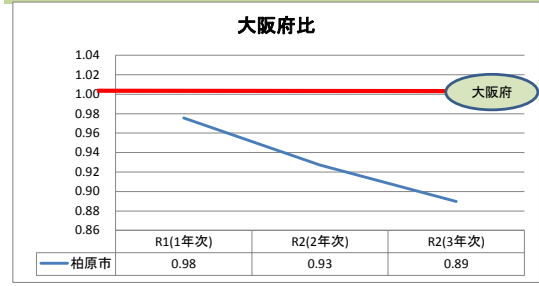
問題の概要は「再生可能エネルギーによる発電に関して、動物や植物に由来する物質から生まれるエネルギーの名前を書く」である。問題の趣旨は「バイオマス発電について理解している」である。正答率については大阪府の平均と比較すると大きく下回り、無回答率については大阪府の平均よりも大きく上回る問題となった。知識的な分野について、社会的事項の内容の理解に課題がある状況である。授業では、社会的事項のそれぞれの内容を正確に把握するとともに、各事項の関係性等を整理する学習内容を取り入れる必要がある。

3-3. 数学科調査結果

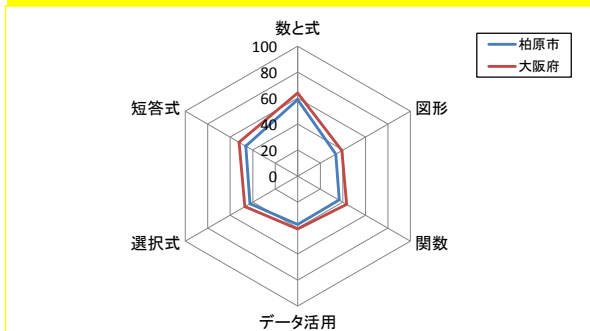
	平均正答率(%)
柏原市	42.8
大阪府	48.1

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と式	10	58.7	63.9	0.92
	図形	8	33.8	39.2	0.86
	関数	9	36.7	43.3	0.85
	データの活用	6	37.2	40.6	0.92
評価の観点	数学的な見方や考え方	23	48.3	53.4	0.90
	数学的な技能	10	30.3	36.0	0.84
	数量や図形などについての知識・理解	-	-	-	-
問題形式	選択式	14	42.4	46.9	0.90
	短答式	17	46.2	52.1	0.89
	記述式	2	18.3	23.3	0.79

★同一生徒集団の経年比較(令和元年度～令和3年度)



◆領域別等のレーダーチャート

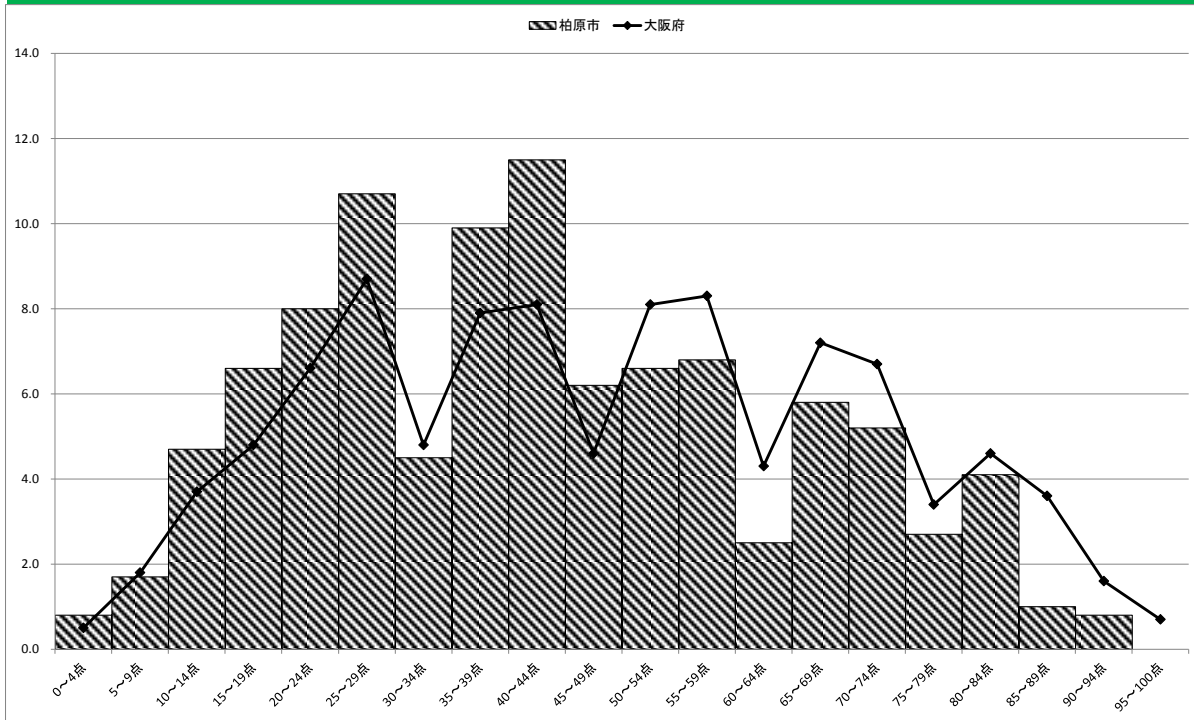


◆特徴的な傾向

- ▼学習指導要領の領域等については、全ての区分で大阪府平均を下回っている。
- ▼得点別分布では「50点以上」の区分において、大阪府より少ない割合である。
- ▼45点未満の低得点域への偏りが見られる。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



3-3-2. 数学科における課題の見られた問題について

【第3学年】

学習指導要領の領域等

数と式

平均正答率等

6 (3) ②	平均正答率	無解答率
柏原市	34.8%	32.0%
大阪府	45.2%	26.7%

正答

[例] $n^2 - (n-8) \times (n+8) = n^2 - n^2 + 64$

(3) はなさんは、図2の で囲んだ数のように、左上から右斜め下に並んだ3つの数についても、問題と同様に、(真ん中の数)² - (最も小さい数) × (最も大きい数)の値がつねに一定の値になるかを調べました。あとの①, ②の問いに答えなさい。

図2

令和3年9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

はなさんは、左上から右斜め下に並んだ3つの数8, 16, 24と2, 10, 18の2つの例を調べることから、次のことを予想しました。

はなさんの予想

左上から右斜め下に並んだ3つの数について、
(真ん中の数)² - (最も小さい数) × (最も大きい数)の値はつねに になる。

はなさんの予想が成り立つことは次のように説明できます。

説明2

左上から右斜め下に並んだ3つの数のうち、真ん中の数を n (n は自然数) とすると、最も小さい数は $n-8$ 、最も大きい数は $n+8$ と表される。

(真ん中の数)² - (最も小さい数) × (最も大きい数)を、 n を使った式で表し計算すると、

$$\begin{aligned} & \text{カ} \\ & = \text{オ} \end{aligned}$$

となる。

したがって、左上から右斜め下に並んだ3つの数について、

(真ん中の数)² - (最も小さい数) × (最も大きい数)の値はつねに になる。

② 説明1の の部分を参考にして、説明2の に当てはまる式を書きなさい。

問題の概要は「(真ん中の数)² - (最も小さい数) × (最も大きい数)を、 n を使った文字で表し計算する」である。出題の趣旨は「考察の性質や目的を明確に捉え、式変形を行うことができる」である。平均正答率が大阪府の平均を下回り、無解答率が大阪府の平均を上回っており、平均正答率・無解答率共に大阪府の平均との差が大きい。

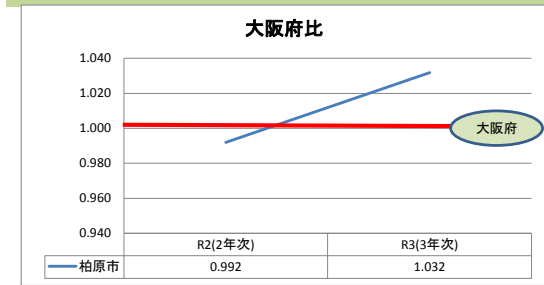
数字で示されている内容を文字を使って表す力が問われている問題である。授業においても、様々な単元において資料や文章で表されている内容を文字を使って表現する練習を積み重ねる必要がある。

3-4①. 理科B調査結果

	平均正答率(%)
柏原市	42.3
大阪府	41.0

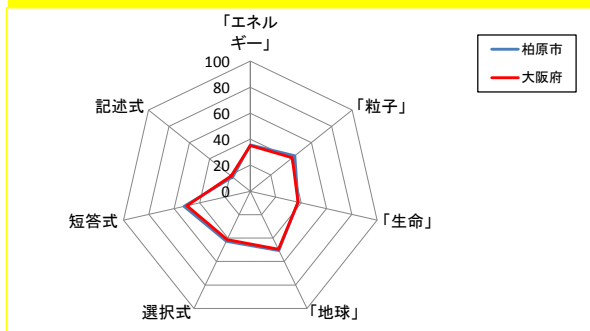
分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	「エネルギー」	6	35.5	35.0	1.01
	「粒子」	13	43.7	41.2	1.06
	「生命」	5	37.6	37.6	1.00
	「地球」	6	50.5	49.5	1.02
評価の観点	知識・技能	14	55.1	53.0	1.04
	思考・判断・表現	16	32.6	31.9	1.02
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	22	42.7	41.2	1.04
	短答式	6	52.2	50.0	1.04
	記述式	2	17.5	18.8	0.93

★同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)



※令和元年度(1年次)の理科の調査はございません。
 ※令和2年度(2年次)の理科は選択問題ではございません。

◆領域別等のレーダーチャート



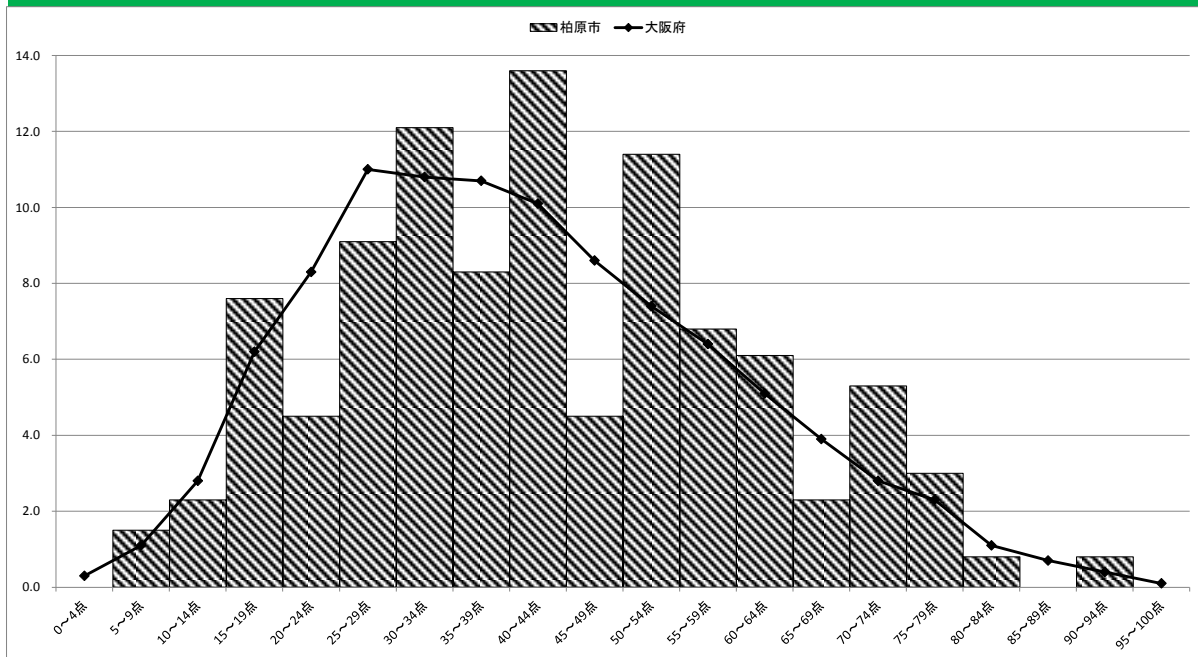
◆特徴的な傾向

- ほぼすべての分類において、大阪府平均以上の結果となった。
- 得点別分布では「70点～79点」までの区分において、大阪府より割合が大きい。
- 同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)において、昨年度より向上し、大阪府平均も上回る結果となった。

▼記述式の正答率は大阪府平均をやや下回っている。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合

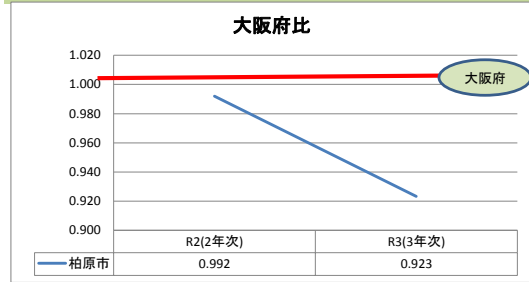


3-4②. 理科C調査結果

	平均正答率(%)
柏原市	39.7
大阪府	43.0

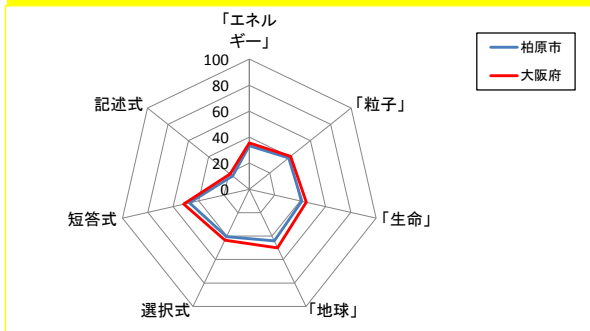
分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	「エネルギー」	6	33.5	35.5	0.94
	「粒子」	7	38.7	40.4	0.96
	「生命」	11	41.4	44.9	0.92
	「地球」	6	44.0	50.0	0.88
評価の観点	知識・技能	14	52.8	57.4	0.92
	思考・判断・表現	16	29.8	32.1	0.93
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	22	40.4	43.5	0.93
	短答式	6	47.2	51.7	0.91
	記述式	2	16.3	18.8	0.87

★同一生徒集団の経年比較(令和2年度～令和3年度)



※令和元年度(1年次)の理科の調査はございません。
 ※令和2年度(2年次)の理科は選択問題ではございません。

◆領域別等のレーダーチャート

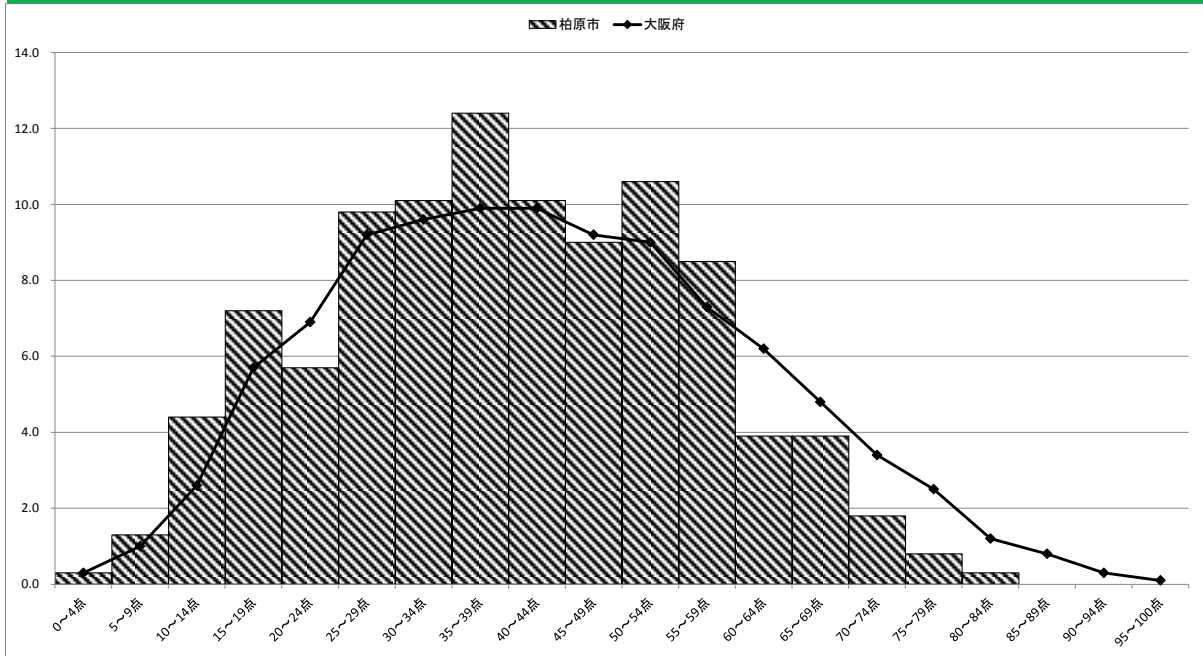


◆特徴的な傾向

- ▼全ての分類において、大阪府平均を下回っている。
- ▼得点別分布の割合では、「40点未満」の低得点層に大きく偏りがある。また、「60点～100点」の層の割合が、大阪府平均より少ない割合である。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



3-4. 理科における課題の見られた問題について

【第3学年】

学習指導要領の領域等

平均正答率等

地球

3 (2) ①	平均正答率	無解答率
柏原市(B選択)	59.8%	0.8%
大阪府(B選択)	65.2%	0.4%
柏原市(C選択)	60.2%	0.3%
大阪府(C選択)	66.8%	0.3%

正答

ウ(停滞前線)

(2) 図3, 図4は, それぞれ観測3日目と観測4日目の午前6時の天気図です。観測4日目の昼休みに, ともやさんは同じクラスのなぎささんと, この天気図を見ながら話をしています。①~③の問いに答えなさい。

図3 観測3日目の天気図

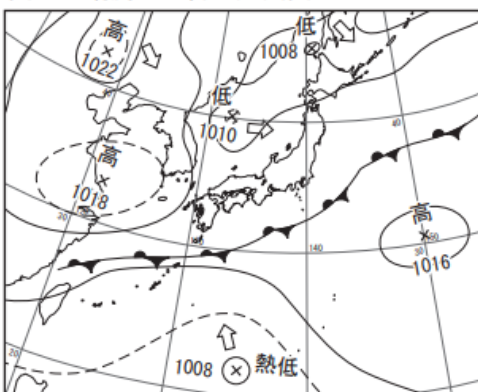
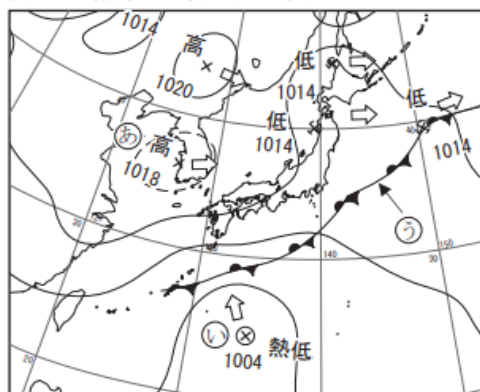


図4 観測4日目の天気図



※熱低は熱帯低気圧を表しており, ⇨は, 高気圧, 低気圧, 熱帯低気圧の進む向きを表している。
(気象庁のWebページより作成)

① 図4中の②の前線名を, 次のア~エから1つ選びなさい。

ア 寒冷前線 イ 温暖前線 ウ 停滞前線 エ 閉そく前線

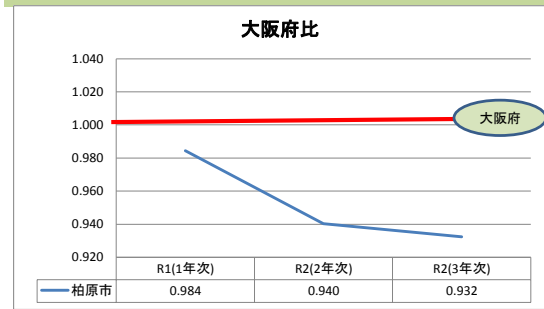
問題の概要は「天気図にある前線の名前を選ぶ」である。出題の趣旨は「前線の記号について理解している」である。理科B、Cともに平均正答率が大阪府の平均を下回っている。記号選択問題であるため、無解答率は低いが、理科B選択者は大阪府の平均を上回っている。
資料の内容を読み取った上で、学んだ知識と正確に組み合わせる点に課題がある。授業においては、知識的な事項の内容を正確に理解させ、問題の形式等を変えたり、複数の資料から答えを導く練習が必要である。

3-5. 外国語(英語)科調査結果

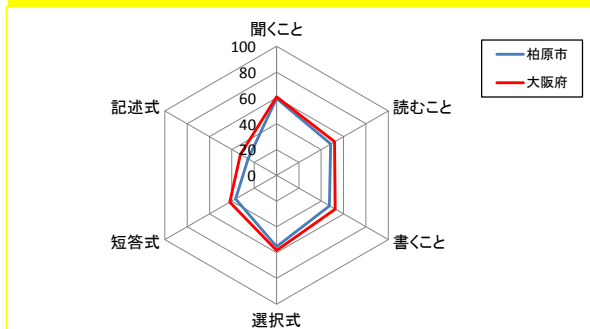
	平均正答率(%)
柏原市	49.6
大阪府	53.2

分類	区分	対象設問数(問)	正答率		得点率
			柏原市	大阪府	
学習指導要領の領域等	聞くこと	10	59.6	60.9	0.98
	読むこと	20	48.6	52.0	0.93
	話すこと[やり取り]	-	-	-	-
	話すこと[発表]	-	-	-	-
評価の観点	書くこと	8	47.4	52.6	0.90
	知識・技能	7	55.7	60.5	0.92
	思考・判断・表現	28	48.0	51.3	0.94
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
	選択式	29	55.4	58.3	0.95
	短答式	2	36.7	41.7	0.88
	記述式	4	25.6	32.5	0.79

★同一生徒集団の経年比較(令和元年度～令和3年度)



◆領域別等のレーダーチャート

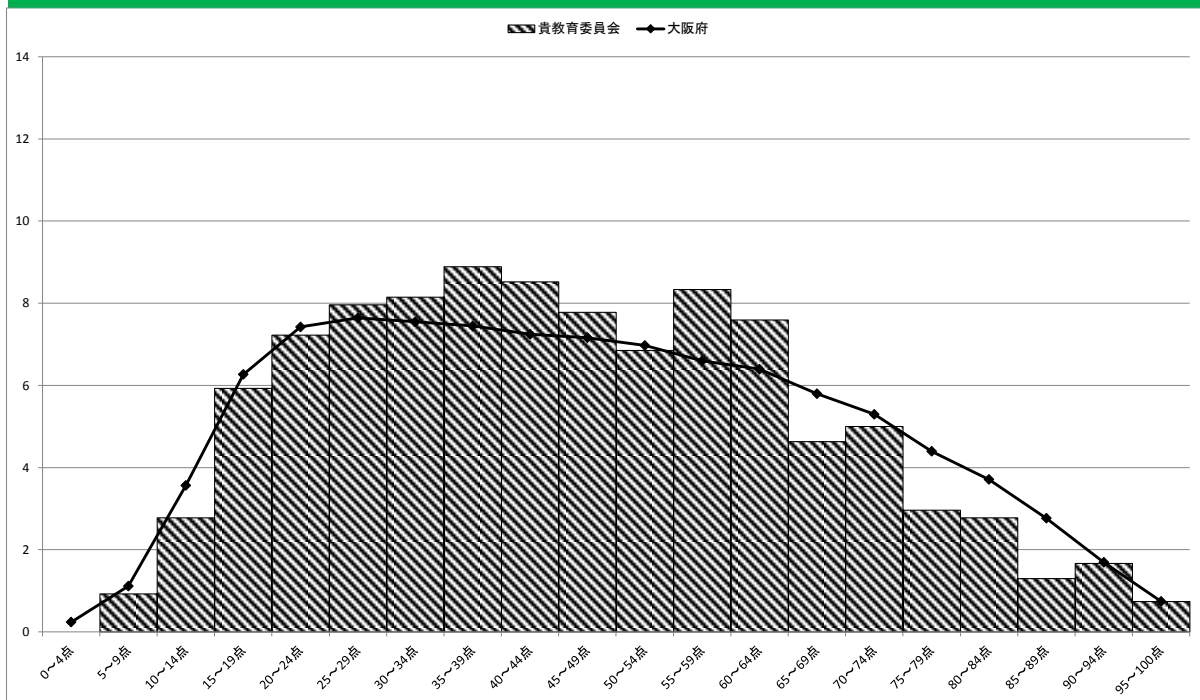


◆特徴的な傾向

- 学習指導要領の領域等の「聞くこと」の区分においては大阪府平均との差は僅差であった。
- 得点別分布の割合では「24点以下」の層が大阪府より少ない割合である。
- ▼全ての問題形式において大阪府平均を下回っているが、特に「記述式」の問題に課題がある。
- ▼得点別分布では、「65点～89点」の区分において、大阪府より少ない割合である。

※ ○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



3-3-2. 数学科における課題の見られた問題について

【第3学年】

学習指導要領の領域等

書くこと

平均正答率等

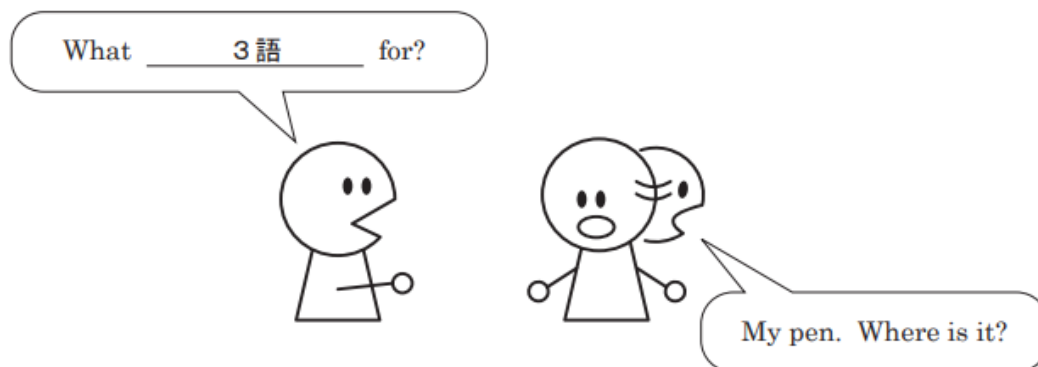
7 (1)	平均正答率	無解答率
柏原市	25.0%	24.5%
大阪府	35.4%	18.1%

正答

[例] (What) are you looking (for?)

- 7 次の(1)～(3)のそれぞれの絵と吹き出し内の英文を参考に、その内容と合うように下線部に指示された語数の英語を入れ、英文を完成させなさい。

(1)



問題の概要は「英文を読み、絵を見て内容を理解し、下線部に指示された語数の英語を入れ、英文を完成させる(現在進行形)」である。出題の趣旨は「英文を読み、絵を見て内容を理解し、指定された語数で適切な英語を入れて文や会話を完成させることができる」である。平均正答率が大阪府の平均を下回り、無解答率が大阪府の平均を上回っており、平均正答率・無解答率共に大阪府の平均との差が大きい。絵と会話文を読み取った上で、どのような状況かを判断する力と、正しい会話文として完成させる力に課題がある。授業においては、英文等で表現された資料から状況を読み取る練習を重ね、意図した文章で表現できる演習を積み重ねる必要がある。

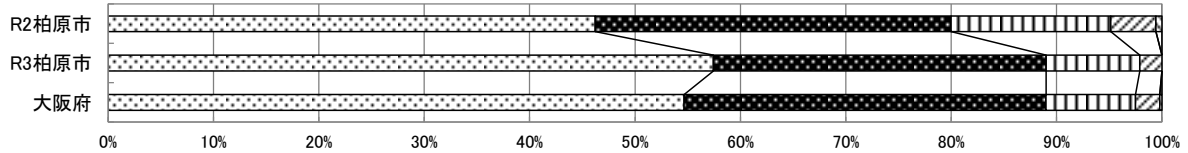
アンケート結果
柏原市教育委員会

	生徒数
柏原市	529

※R2柏原市…2年次の対象生徒の回答

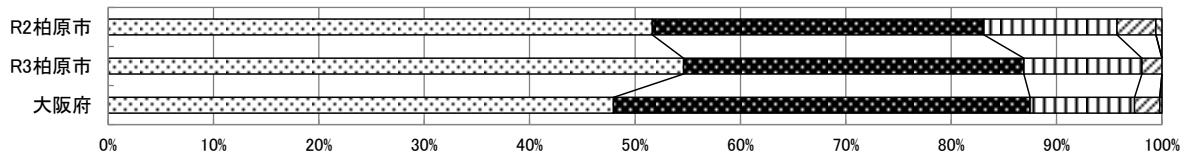
質問番号	質問事項									
問1	授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2柏原市	46.2	33.8	15.1	4.3	—	—	—	—	0.0	0.6
R3柏原市	57.5	31.6	8.9	2.1	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	54.6	34.3	8.5	2.3	—	—	—	—	0.0	0.2

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



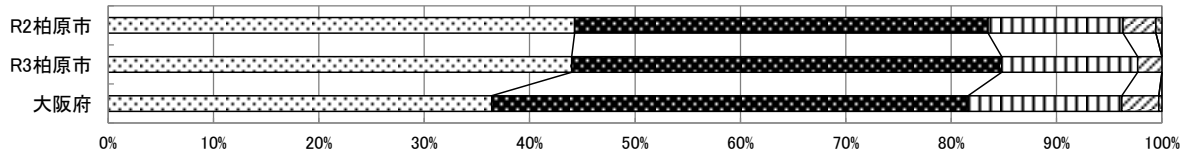
質問番号	質問事項									
問2	授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2柏原市	51.7	31.5	12.6	3.7	—	—	—	—	0.0	0.6
R3柏原市	54.6	32.3	11.2	1.9	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	47.9	39.5	9.9	2.4	—	—	—	—	0.0	0.2

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



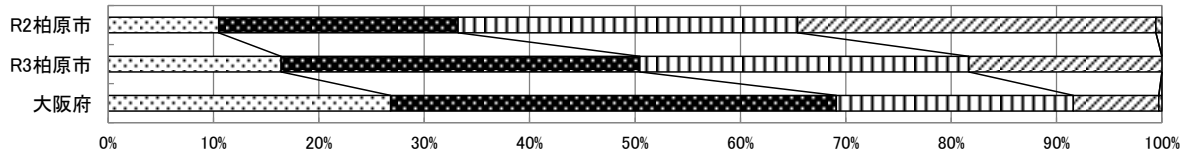
質問番号	質問事項									
問3	授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2柏原市	44.3	39.2	12.8	3.1	—	—	—	—	0.0	0.6
R3柏原市	44.0	40.8	12.9	2.3	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	36.4	45.2	14.6	3.5	—	—	—	—	0.0	0.3

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



質問番号	質問事項									
問4	授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2柏原市	10.5	22.7	32.2	34.0	—	—	—	—	0.0	0.6
R3柏原市	16.4	34.0	31.2	18.3	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	26.8	42.3	22.5	8.1	—	—	—	—	0.0	0.3

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



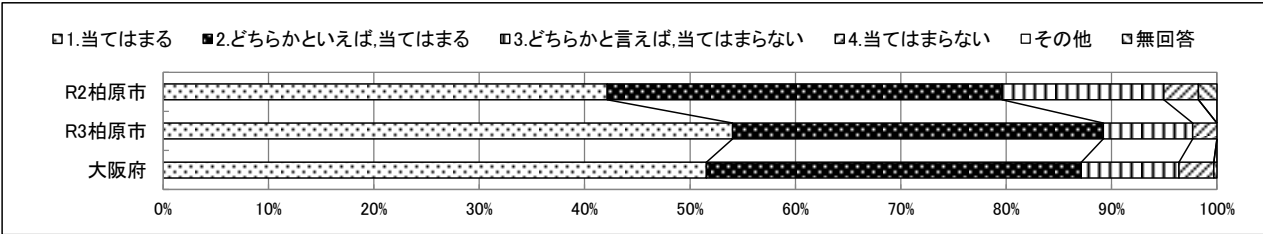
○「授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。」「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。」の質問に対しては「当てはまる」の回答が大阪府平均より多く、昨年度よりも良い傾向が見える。
 ○「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。」の質問に対しては肯定的回答が大阪府の平均より多く、昨年度よりも良い傾向が見える。
 ▼「授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。」の質問に対する肯定的回答は昨年度より伸びているものの、大阪府の平均より約20%近く少ない。

アンケート結果
柏原市教育委員会

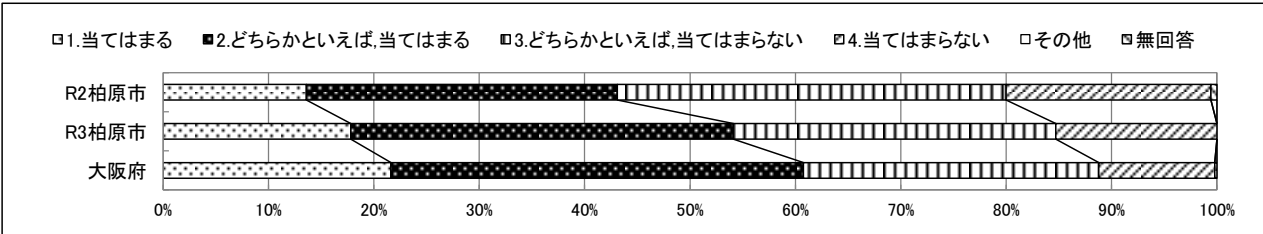
柏原市	生徒数 529
-----	------------

※R2柏原市…2年次の対象生徒の回答

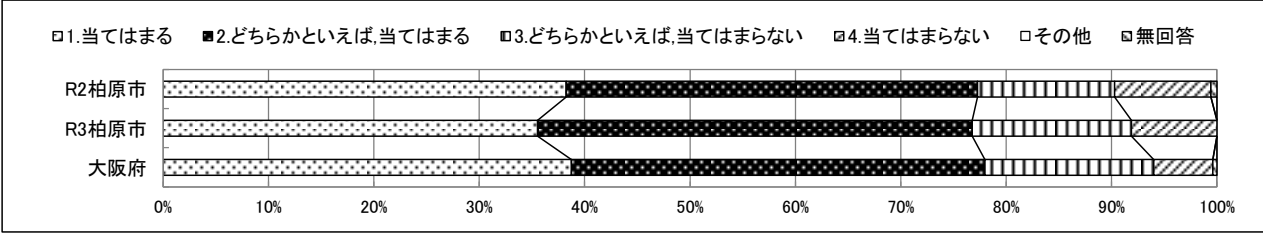
質問番号	質問事項									
問5	授業中、間違っても笑われない。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2柏原市	42.1	37.5	15.3	3.3	—	—	—	—	0.0	1.7
R3柏原市	54.1	35.2	8.5	2.3	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	51.6	35.6	9.3	3.3	—	—	—	—	0.0	0.3



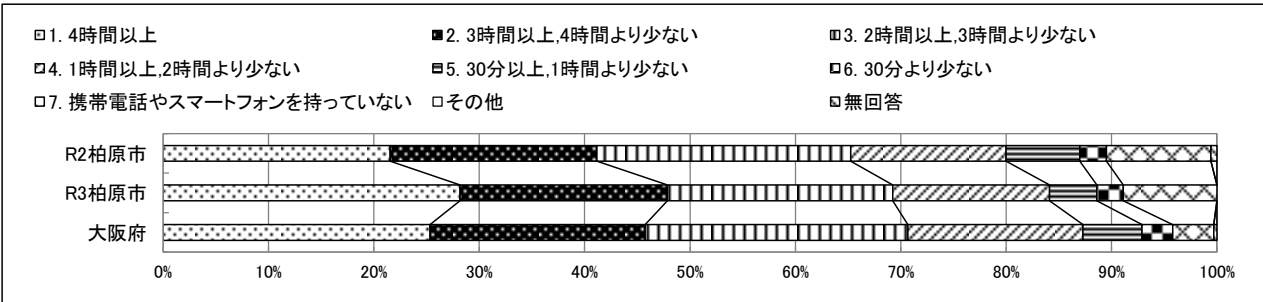
質問番号	質問事項									
問6	自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2柏原市	13.6	29.5	36.9	19.4	—	—	—	—	0.0	0.6
R3柏原市	17.8	36.3	30.6	15.3	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	21.6	39.1	28.0	11.0	—	—	—	—	0.0	0.2



質問番号	質問事項									
問7	テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2柏原市	38.3	39.0	13.0	9.1	—	—	—	—	0.0	0.6
R3柏原市	35.5	41.2	15.1	8.1	—	—	—	—	0.0	0.0
大阪府	38.7	39.2	16.0	5.6	—	—	—	—	0.0	0.4



質問番号	質問事項									
問8	普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2柏原市	21.6	19.6	24.1	14.8	7.0	2.5	9.9	—	0.0	0.6
R3柏原市	28.2	19.7	21.4	14.9	4.5	2.5	8.9	—	0.0	0.0
大阪府	25.3	20.4	24.9	16.6	5.6	2.9	3.9	—	0.0	0.3



○「授業中、間違っても笑われない。」という質問に対する肯定的回答は、大阪府平均より多く、昨年より良い傾向である。

○「自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。」という質問に対する肯定的回答は、昨年より増加している。

▼「自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。」という質問に対する肯定的回答は、大阪府平均より少ない。

▼「テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。」という質問に対する肯定的な回答は、大阪府平均よりやや少ない。

▼「普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。」という質問に対して、3時間以上と回答した割合は、大阪府平均を上回っている。また、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」の回答は大阪府平均より多いため、持っている生徒が長時間使っている傾向が見て取れる。

○教育委員会としての今後の取組み

- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・チャレンジテストや全国学力・学習状況調査に共通して見える課題点をもとにした授業改善についての研修を進めていく
- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する視点に立った授業実践や公開授業をとおして、経験の浅い教員が授業改善を実践していくための視点を得られるようにする
 - ・経験年数の多い先輩教員の授業参観及び、協議に参加(年2回以上)
 - ・学校公開にて、授業の参観及び取組み報告会に参加(年2回以上)
- ・「(複数の)情報を読み取る力」の育成をねらった具体的な施策の提案・実施をしていく
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・タブレットPCの持ち帰りによる学習も含め、家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施する

○学校における今後の取組み

- ・指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・特にチャレンジテストの分析結果を、教科会等で話し合い、授業改善や各取組みに生かす
- ・低得点域の底上げと同時に、高得点域の伸長を図る
- ・「(複数の)情報を読み取る力」に焦点をあて、活動の充実を図る
- ・学んだ知識や(複数の)情報から読み取った内容をもとに考えたことを表現させる活動等を充実させる
- ・具体的な事象を式やグラフに表したり、根拠となるものを明らかにし、筋道を立てて説明するような活動を充実させる
- ・英語教育推進教員を中心に、外国語教育を充実させる
- ・ICT教育推進リーダーを中心に、ICTを活用した教育を充実させる

～ご家庭にお願いすること～

①基本的な生活習慣の定着

- ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる
- ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
- ・朝食をとるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる

②家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める
※中学第1学年生徒は、7年生とする
- ・毎日の宿題ができているかを確認する

③スマートフォンやゲーム等のメディアについてのルール作り

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
- ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する